

## 6 個別の教育支援計画と個別の指導計画の作成について

### (1) 個別の教育支援計画と個別の指導計画について

特別な教育的支援を必要とする子どもの困りの状況等に応じて、適切な指導を行うためには、「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」を作成し、効果的に活用していくことが大切です。

#### 個別の教育支援計画

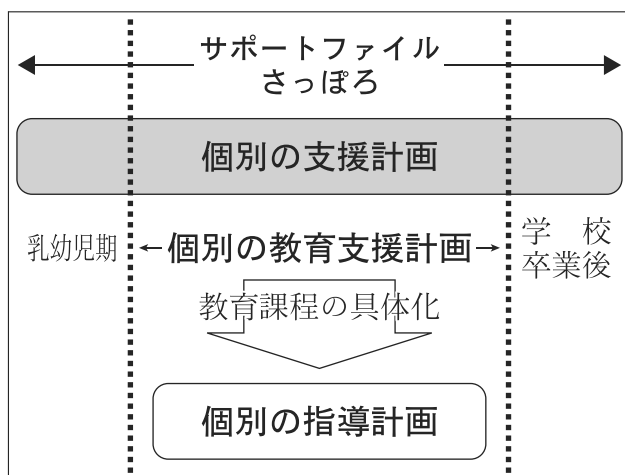
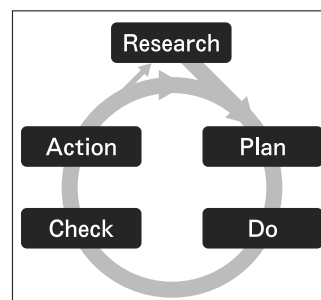
「個別の教育支援計画」とは、障害者基本計画（平成14年12月）に規定された「個別の支援計画」のうち、教育機関が中心となって作成するものがあります。子どもの障がいの状態等に関わる情報を障がいのある子どもに関わる様々な関係者が共有化できるよう、教育的支援の目標や内容、関係者の役割分担などについて、比較的長い期間で計画が作成されるものです。

また、「個別の教育支援計画」は、本人や保護者が主体的に活用することが望ましいことから、作成にあたっては、子ども一人一人のニーズを的確に把握するとともに、保護者の意見を取り入れながら、特別支援教育コーディネーターを中心に、校内学びの支援委員会で作成することが必要になります。

#### 個別の指導計画

「個別の指導計画」とは、個々の子どもの障がいの状態や発達段階等の的確な把握に基づき、適切な指導目標を設定し、適切な指導を行うことができるよう、一人一人の指導目標や指導内容・方法の明確化を図り、教育課程を具体化したものです。

個別の指導計画の作成とその活用にあたっては、教育的ニーズの把握（Research）を基に、計画の作成（Plan）、実施（Do）、評価（Check）、改善（Action）のマネジメントサイクルに基づきながら活用することが大切です。



個別の教育支援計画と個別の指導計画の関連図

### (2) 「サポートファイルさっぽろ」について

教育委員会ではこれまで、特別な教育的支援を必要とする子どもやその保護者に対して、継続した相談・支援を行うことができるよう「学びの手帳」を作成・発行してきたところですが、保健福祉局において、より早期からの相談・支援に資するよう「サポートファイルさっぽろ」を作成しました。

平成26年4月から、「学びの手帳」を「サポートファイルさっぽろ」へ整理・統合をすることにしました。



■ 「サポートファイルさっぽろ」の内容は、保健福祉局のホームページ（障がい保健福祉部）からダウンロードすることができます。

<https://www.city.sapporo.jp/shogaifukushi/hattatu/supportfiles.html>

「サポートファイルさっぽろ」の主な目的は、一人一人の子どもについて、その個性や特徴に応じた一貫した支援がなされること、そして多くの人たちが連携を深めることにあります。お子さんの成長に合わせた継続性のある支援を行うことができるよう、札幌市として、市内の各関係機関と協力して活用に取り組んでいるものです。

### サポートファイルさっぽろの各シートについて

#### I フェイスシート

- お子さんのことについて
- 緊急連絡先、家族構成
- お子さんの様子（胎生時、出産時、乳幼児期、健康状態）

フェイスシートは、子どもについての基本的な情報を記入するものです。いわゆるプロフィールのようなものであり、子どもの支援につながる「サポートファイルさっぽろ」の窓口です。

#### II ヒストリーシート

- 相談の記録
- 関係機関の情報
- 手帳の交付、福祉サービス等の利用状況

ヒストリーシートは、子どもの関係機関等での相談記録などを記入するものです。また、手帳の交付を受けたり、福祉サービスの利用について記入したりするなど、備忘録として活用します。

#### III サポートシート

- 現在の様子（保育所、幼稚園等、学校）
- サポートプラン
- サポートマップ

サポートシートは、子どもの支援の計画を作成し記入するものです。子どもの現在の様子をもとに、支援者とともに、長期や短期の目標を立て、子どもの支援に役立てていきます。

#### IV オプションシート

- ひきつぎシート（保育所、幼稚園等から小学校、小学校から中学校）
- 療育機関等での記録
- 連絡（ひきつぎ）シート
- 就労等に関わる記録
- 自己紹介
- 受診歴
- 職歴・就労相談歴

オプションシートは、ひきつぎや関係機関との連絡、また、就労に係わる記録など、必要に応じて使用するシートです。就学や就労など、それぞれの接続に役立てていきます。

### サポートファイルの使い方

関係機関との連携を基にして、子どもに関する様々な情報を**原則的には保護者の方が記録・保管**していきます。ファイルの内容は個人情報ですので、大切に取り扱いましょう。

各種相談の際には母子健康手帳と同様に本ファイルを持参し、状況に応じて、必要なページを関係者に見てもらったり、書いてもらったりします。状況に変更があった場合などは、随時書き直したり書き加えたりします。

### 記入の仕方

すべてのページを記入する必要はありませんし、どのページから書き始めても構いません。子どものことや関係者に知ってほしいこと、伝えたいことなど記入することが大切になります。1ページに書ききれない場合は、適宜用紙を追加します。

必要に応じて様式を追加しながら、それぞれのファイルを作り上げていくことが大切です。

### (3) 「サポートファイルさっぽろ」を活用した個別の教育支援計画の作成について

#### 「サポートファイルさっぽろ」を個別の教育支援計画に

保護者との連携を図りながら、「サポートファイルさっぽろ」を次のように活用して個別の教育支援計画を作成します。

- 学校は就学相談資料（サポートプラン）を活用して記入できるところを書くなど、作成について積極的に協力するとともに、保護者とその内容について共通理解を図ります。
- 必要に応じて、保護者の了解を得て、関係機関への連絡、関係機関からの情報収集、整理をします。
- 原則的には保護者の方が保管をしますが、複写して保護者と学校が共に共有することでより効果的な活用ができます。

#### 「サポートファイルさっぽろ」を活用した作成例

この作成例の場合、学校は「サポートファイルさっぽろ」の各シートの中から、「フェイスシート1」「サポートシート2、3、4、5」のシートの作成に協力することにしました。

【フェイスシート1】

氏名・住所

ふりがな 氏名		保護者名	
生年月日		血液型	
〒			
住所	〒		

緊急連絡先

1	連絡先氏名		続柄	
	連絡先	自宅・携帯・職場・その他（	）	
	電話番号			
2	連絡先氏名		続柄	
	連絡先	自宅・携帯・職場・その他（	）	
	電話番号			

家族構成

続柄	ふりがな 氏名	通学先・職場等

「フェイスシート」を使って、子どもの基本的な情報を記入します。基本的な情報を毎年書き換える必要はなく、追記や変更があった場合に随時加筆修正をします。

【サポートシート5】

サポートマップ

作成日： 年 月 日

医療	教育
療育	家庭
福祉	地域
相談機関	(就労)

本人・保護者

○現在、関わっている機関はどこか。以前、関わっていた機関、この先、関わるのが予想される機関はどこか。

○それぞれの機関で、どのような支援をどれぐらいの頻度で受けているか。

○各機関からは、どのような情報が受けられ、教育的支援のどういったことに役立てることができるかなどを保護者に確認しながら(保護者の了解を得て情報収集する)記載します。

【サポートシート2】

現在の様子（取組や本人の状況）—学校—

記入年月日： ○○年 ○月 ○日 年齢： 13歳 年 組

学校名： 記入者名：

学校での様子	
習慣 基本的な生活	・遅刻や早退が少なく、生活のリズムは安定している。 ・苦手なことに直面したときに黙ってしまうことがある。
シ コ ム ニ ケ ー	・一人でぼんやりとしていることが多い。 ・自分から友だちに話しかける様子はあまり見られない。
学 習 の 様 子	・文章を読むことはできるが、内容を読み取ったり、登場人物の心情を理解したりすることが苦手である。 ・一斉指導において全体の指示を聞き逃して、戸惑っていることがある。
運 動	・身体を動かすことは好きであるが、バスケットなどのボールを使ったゲームは苦手である。
興 味 ・ 関	・TVゲームが好きである。TVゲームに登場するキャラクターの知識が豊富である。

「サポートシート」を活用し、子どもの教育的ニーズを把握するために必要な情報を分かりやすくまとめていきます。

「サポートシート2」には、本人の学習面、行動面の様子、対人関係の様子などの状況を記入します。関係機関と情報の共有を図る場合にも有効です。

「サポートシート2」や「サポートシート3」は、札幌市学びの支援委員会の判断に基づいた「就学相談資料（サポートプラン）」（P5）を活用できます

「サポートシート3」には、現在の様子、本人の得意なことや本人や保護者の願い、長期目標と手だてについて記入します。本人の良さを生かしながら、支援の手立てを考えていきます。

【サポートシート4】

短期目標	支援の手だて
目標達成の目的（	中学校2年前期終了までに）
・自分の気持ちを表現できるようになる	・本人が安心できる場で、スピーチの時間を設定する。事前に担任と話す内容を確認し、安心感を高める。

↓

成果と課題	
・スピーチの時間では、少しずつ大きな声でできるようになったが、それ以外の場面で自分の気持ちを表現することはまだ少ない。（H.O.O記載）	

短期目標	支援の手だて
目標達成の目的（	（前ページ）

「サポートシート4」には、長期目標の達成に向けた、短期目標と支援の手立て、成果と課題を記入します。支援の手立ては長期目標よりも具体的なものとなっています。支援を行った成果と課題を記入し、その後の支援につなげていきます。

この「サポートプラン」は、学びのサポートターの申請様式にもなっています。

【サポートシート3】

サポートプラン

作成日： 年 月 日

作成機関名：

記入者名：

現在の様子	
サポートシート2を参照	
支援に生かすことのできる本児のよさ	
・見通しのもてる活動には意欲的に取り組むことができる。 ・簡潔な指示や分かりやすい手本があると、活動に取り組みやすい。	
本人や保護者の願い	
本人 ○○高校に進学したい。（H.O.O.O） 保護者 学力をしっかりと身につけてほしい。 自分の意思や気持ちを言葉で表現できるようになってほしい。（H.O.O.O）	
長期目標	支援の手だて
目標達成の目的（	中学校2年生年度末頃 までに）
・コミュニケーションの力を高める。	・友達などと、どのようにやりとりをすると良いかを簡潔な言葉で示すことで、状況に応じた適切な会話の仕方を指導する。

○「フェイスシート2、3」や「ヒストリーシート」については保護者が母子健康手帳等を参考に記録しました。学校は保護者とその内容も含めて共通理解を図るとともに、引き継ぎの際などにもサポートファイル（オプションシート）を使っていくことを確認しました。

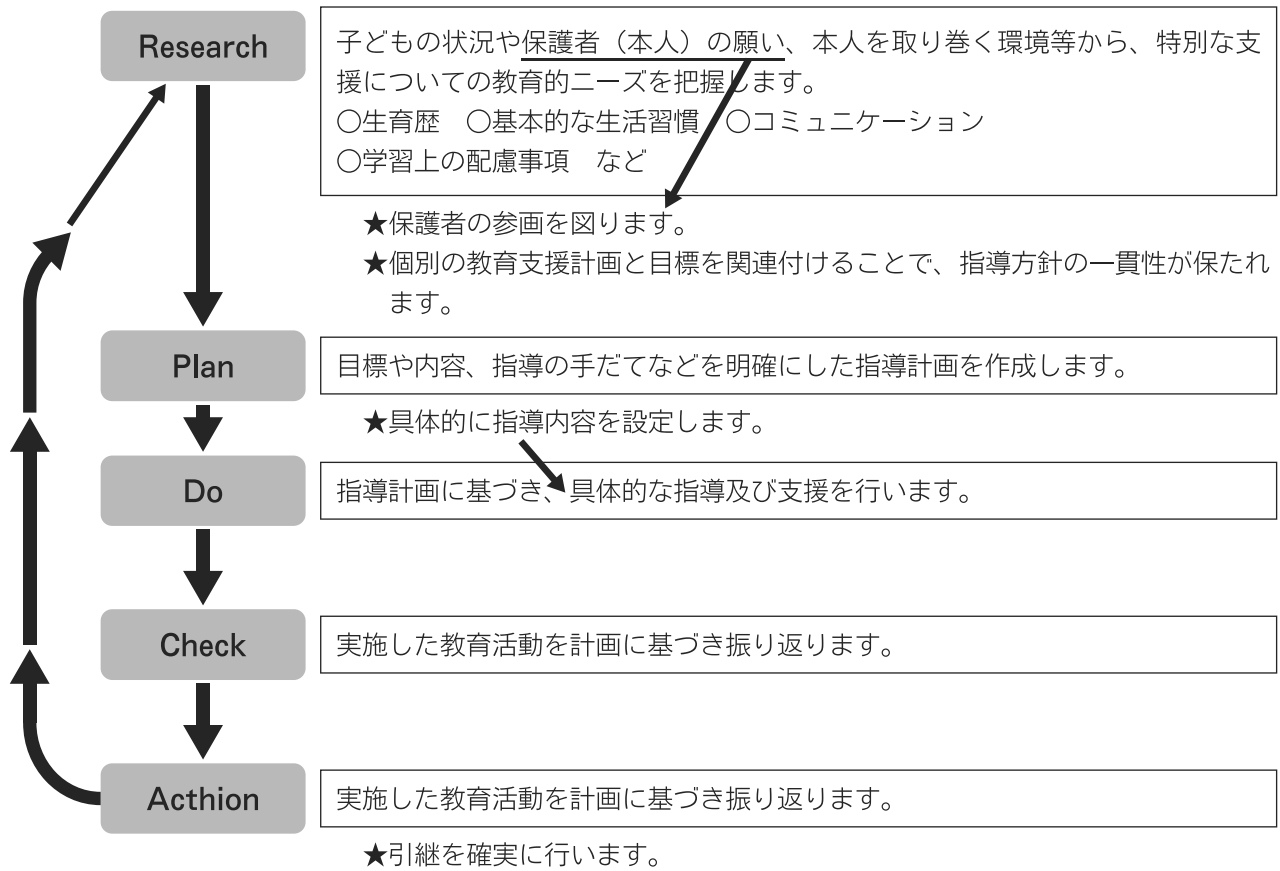
○この後、学校にサポートファイルの複写を置くこと、定期的に見直し等をするのを保護者と確認しました。

**【サポートファイルを活用した個別の教育支援計画の完成です！】**

※すでに学校で計画を作成している場合には、保護者の所持するサポートファイルと一緒に保管することをすすめることで、双方を活用する意義が高まります。

#### (4) 個別の指導計画の作成について

##### 個別の指導計画作成の流れ



##### 個別の指導計画の作成例 1 (小)

##### 個別の指導計画

学年・組	○年 ○組	氏名			
記入者	担任 ○ ○ ○ ○	記入日			
願 望					
本人・保護者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書がすらすら読めるようになりたい。(本人)</li> <li>・毎日登校してほしい。(両親)</li> <li>・勉強に意欲的に取り組んでほしい。(両親)</li> </ul>				
学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日登校してほしい。</li> <li>・気の合う友達と一緒に学校生活の楽しさを共有する経験を重ねてほしい。</li> </ul>				
	実態	考えられる背景・要因	目標	指導方法・手だて	主な指導の場や支援・協力者
学習面	・読みがたどどしく、「読んで理解する」ことに時間がかかる。	・小学校中学年程度の漢字の読みが習得できていない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校3年生の漢字の読みを習得する。</li> <li>・国語の教科書の音読ができるようになる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続的に漢字ドリルに取り組み、定期的に採点や個別指導を行う。</li> <li>・国語の教科書に読み仮名を記入して音読練習を家庭で行い、授業であたる前に国語の先生のチェックを受けてから授業に臨ませる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭(母)</li> <li>・放課後(○先生)</li> <li>・家庭(母)</li> <li>・放課後(○先生)</li> </ul>
生活面	・夜型の生活になっており、朝起きられずに欠席することが増えている。	・登校をしづっている時に、朝、起きようとしていないことが多く、そのまま一日置きずに過ごし、夜に活動している。(登校を渋り始めたのは、授業中の国語の授業中)	・規則正しい生活のリズムを確立する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校時代からの友人と一緒に登校するよう、友人から働きかけたり、迎えに行ったりしてもらう。</li> <li>・睡眠や食事の時間を一定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・○○くん</li> <li>・○○くん</li> <li>・家庭(両親)</li> </ul>

実態に対して、考えられる背景や要因を推測して記入することで、それらを踏まえた効果的な指導方法や手だてが考えられています。

## 個別の指導計画の作成例 2 (中)

平成〇〇 (20〇〇) 年 3 月〇日

生徒氏名：〇〇 〇〇 (男)

〇〇年度個別の指導計画・評価編 (1 / 2)

作成者：〇〇中学校まなびの教室 〇〇 〇〇

基本 情報	生年月日・性別	H〇. 〇. 〇 (男)	入級日：H〇. 〇. 〇
	在籍校学年組担任	札幌市立〇〇中学校 3 年〇組、〇〇 〇〇先生	
	家族構成	父：(会社員)、母(無職)、弟(小〇)	
	医療機関等	<ul style="list-style-type: none"> <li>〇〇病院に月 1 回通院 (担当医師：〇〇先生、担当セラピスト：〇〇さん、服薬：リスパダール～抗不安薬)</li> <li>診断名：PDD (広汎性発達障害)</li> </ul>	
	サポート機関等	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童ディサービス“〇〇”：週〇回 (〇曜日)、家庭教師 (〇曜日)、居宅支援事業所“〇〇” (随時)</li> </ul>	
	手帳等の取得	療育手帳B-	
	生育歴相談歴	<ul style="list-style-type: none"> <li>3 歳前に母の気付きにより保健センターで発達相談。札幌市早期療育支援事業“さっぽ”を紹介され通い、〇〇にて受診し診断を受け、定期的に通院する。</li> <li>就学後では、ことばの教室、児童デイサービス“〇〇”などで療育継続。中 2 で教育センターより“まなびの教室”開設を知り、通級開始。</li> </ul>	
	問題の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>表面的な適応に特に問題は無いが、学習上の課題 (書字の困難、英単語等が覚えられない)、親しい友人が居ない、ストレスを溜めやすい (チック、頻尿等)。</li> </ul>	
	本人の願い	学校 (学習) 面でうまくやれるようにしたい	
保護者の願い	①自信をもてるようにしたい ②友達と楽しいと思える時間がもてること		
性格・趣味等	<ul style="list-style-type: none"> <li>性格：正直、優しい、よく手伝いをしてくれる。</li> <li>趣味：マンガを読む、絵を描く、野球</li> </ul>		
項目名	状況と評価		課題
学校での状況 (学習)	<ul style="list-style-type: none"> <li>〇年時第 1 回評価テストでは〇〇点台 (500 点満点) だったが、最終的には評定で〇は無かった。得意科目は社会と美術で社会は得意で〇割位は取る。不得意科目は、国語 (文章読解) と英語 (単語の記憶) と数学。発言はよくする。書字に困難がある。</li> <li>数学・国語・英語などで基礎的な部分が曖昧なまま「記憶力」でカバーしてきた面が見られる。</li> <li>自分の達成度に劣等感をもっている。</li> <li>昨年度から学びのサポーターがついている。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>苦手教科の基礎的部分の理解</li> <li>書字の困難</li> <li>文章の読解</li> <li>英単語の記憶</li> </ul>
(運動・作業等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学校高学年でキャッチボール、バッティング等が出来るようになり、小 6 で同級生と野球できるようになった。</li> <li>中学で部活には入らず、友達との野球も途絶えた。</li> <li>中 3 で卓球ができるようになった。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>運動能力の発達に若干の遅れ</li> </ul>
(対人関係)	<ul style="list-style-type: none"> <li>人柄が良く、クラスの人気者だという。(担任の評価)</li> <li>多弁で友好的だが、正義感が強すぎる面がある。</li> <li>誇大妄想的なことを言って心配させるが、本人に聞くと「俺の夢だから」と答えるなど現実感覚はもっている。</li> <li>適応状態に問題は無いと見られがちであるが、親しい友達が居らず、孤独感をもっている。</li> <li>集会などで先生が他の生徒を大声で叱責すると自分が叱られているように感じるという。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>“強い孤独感”に対する周囲の理解と支援の必要性</li> <li>感覚の過敏さがある。</li> </ul>
心理検査	<ul style="list-style-type: none"> <li>WISC-III 検査日H〇、〇月〇日 (中 2) 札幌市教育センターにて実施FIQ：〇〇 VIQ：〇〇 PIQ：〇〇：下位検査項目にバラツキが大きい。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>能力のアンバランス</li> </ul>
家庭の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>特に問題は無いものと思われる。離れた住む祖母と仲が良い。</li> </ul>		
その他の経過	<ul style="list-style-type: none"> <li>小〇の時漫画の一節を読み、その部分が恐怖となり、1 週間ほど摂食障害 (〇kg 近く減少) になり、〇〇にてリスパダールを処方開始される。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>些細な事を脅迫的に感じる。</li> </ul>
長期目標	成功体験の積み重ねにより自尊感情を育む		